

仙台市宮城野区 30代 男性 会社員



病院の毛布一枚のありがたさを実感

身重の妻と車中で過ごす

地震が起きたのは、出産を控えた妻を産婦人科医院に迎えに行ったちょうどその時でした。

病院内にはたくさんの妊婦さんがいらっしゃったのですが、看護師さんたちの冷静で的確な指示もあり、母体に悪影響を及ぼさないように細心の気配りをしていただきながら、病院の毛布を持参して外に避難したのです。

その後、雪となったので、毛布一枚の暖かさやありがたさを文字通り肌身で実感しました。

その後、車で通常30分の道を2時間かけて自宅マンションに戻りましたが、エレベーターが止まっていたので、階段で5階にある部屋まで上がりました。案の定、家財が玄関にまで散乱していて、足を踏み入れることができませんでした。

結果的にその夜は、車中で過ごすことになったのですがこれが身重の妻にとっては辛かったようでした。

今回の経験を機に、さらに“災害時には何が必要なのか”を見極めつつ、必要な備えは十分に、不必要なものは少なくという暮らし方を、あらためて強く意識するようになりました。



仙台市宮城野区 40代 女性 主婦



近所のスーパーは長蛇の列！

3時間待ちで食料を手に入れる

地震が起きたときはパート先でした。その日は交通機関が動かず、家に戻れたのは次の日でした。

幸い大きな被害はなかったのですが、食料品が底をついていました。急いで近所のスーパーに向かいましたが、長蛇の列！店舗に入るまで3時間程かかりました。その上、飲料を求めてまた順番待ち。

地震が起きる事は何年も前から何度も報道されていましたが、私の中では「まさか……」という思いがあったのだと思います。普段から防災意識を深め、備えをしておくべきだったと反省しています。また、近所の方々にも色々助けてもらった部分も改めて実感しました。

もし、震災の一日前に戻ったら、家族との安否の確認、伝えられる範囲の方々に連絡し混乱を少しでも緩和できればと思います。



高原町 60代 女性 野菜直売所職員



認知症の母と離れて避難

もしもの時に備えよう

店が閉まると同時に私も避難生活に入りました。母と2人で暮らしているのですが、母は認知症を患っているため、避難所での生活はとても無理と思い、私は娘の所、母は妹の所に身を寄せました。避難所で大勢の方との共同生活ですし、トイレの使い勝手も違うので、ずっと付き添っていないといけませんからね。

娘は団地住まいなものですから、飼っている犬を連れて行くことができません。ちよくちよく餌をやりに戻っていました。それでも、散歩には連れて行けませんし、親戚が預かってくれるまでは不安でした。

お店の状態も気がかりでした。灰が降るくらいならまだ良いのですが、もし雨が降ってしまったら近くの川が氾濫して土石流が起こると言われていましたので。幸い、取り越し苦労で済みましたが、雨が降っていたらと思うとゾッとします。

被災して感じたことは、お金のありがたさ。もしもの時を考え、それからは節約するようになりました。





停電で浄化槽が使えず、道の駅のトイレへ

車の通り道をみんなで雪かき

家の前が坂道になっていますが、12月31日の夜には雪が重く、すでに雪かきができるような状態ではありませんでした。みんなが通れるよう、新しく降り積もった雪を踏み固めたりしていました。その後、テレビで紅白歌合戦を見ようと思っていたら停電。浄化槽がポンプアップできなくなり、満杯になり蓋が浮き上がってきたので、トイレが使えなくなっていました。

当時、他の家族が県外からいろいろ来ている、わが家は十数名という大所帯でした。トイレは、道の駅のものを使わせてもらおうということになり、バス道に出るまでの道をみんなで雪かきをして、車を出せるようにしました。

雪害に関して言えば、外出している際は、市内のビジネスホテルや親せき宅などへの避難を考えることも大事ですね。降ることがわかっていればの話ですが。





過去の大雪ではなかった倒木被害

里山の整備が急務

大晦日は大雪で、元旦には私が住む平地でも40センチメートルくらい、山の方では80～90センチメートルくらい積もっていたようです。湿った重い雪で、木々にすごく着雪していました。

昭和46年2月に豪雪がありまして、松江市市街地でも80センチメートルの積雪を記録しました。その時と降り方が似ていましたね。ただ当時との違いは、里山の手入れが十分になされていなかったことです。夜中にバーンと大きな音が出て、朝になって見てみると、直径30センチメートルくらいの木が根っ子から倒れているんですよ。もう景色が一変するくらい、あちこちが目茶苦茶になっていました。100本近くの竹が折れ、道路をふさいだ地区もありました。倒れた木や竹は、チェーンソーを持ち寄り、住民で片づけました。

豪雪の被害を少なくするためには、日ごろから里山を整備しておくことも重要ではないでしょうか。地権者の方にも気をつけてもらわなくてはなりませんね。また、そのための道具の確保も必要です。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう!

----- 簡単な手順を紹介します -----

まず、過去の自然災害(地震、水害)の中から対象を選ぶ

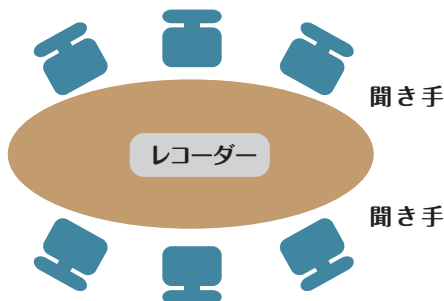
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する

※所要時間は2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、体験したり感じたことを話し合ってもらおう

※話し手は、2~4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を物語にする

※物語は、300~500字程度で、できるだけ切り口を残して編集

※物語の情景をあらわすイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省

「一日前プロジェクト」とは、地震や水害などの自然災害で被災した方や災害対応の経験をもつみなさまにお集りいただいて、

- 被災前後の行動
- 体験を通じて上手くいったと思うこと、失敗したと思うこと
- もう一度災害が発生したならば、次はどのように行動したいか
- そのために日頃から何を準備しておけばよかったか

といった本音の話をお聞かせいただき、これらの話から導き出されるさまざまな教訓や身につまされる体験をショートストーリー(エピソード)に取りまとめるという活動です。

こうして取りまとめたエピソードを広く活用・普及させることで、地域のコミュニティや国民一人ひとりに、防災・減災への関心や意識を高めていただくことを目的としています。

ここで紹介する物語は、ほんの一部です。一日前プロジェクトから生まれた物語は、内閣府の「災害被害を軽減する国民運動のページ」<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html>に掲載されています。ぜひ、アクセスしてみてください!きっと、あなたの心を動かす物語が見つかるはずです。

■一日前プロジェクトの物語・イラストは、非営利の目的であれば、広報誌やパンフレットなどで自由にお使いいただけます。「災害被害を軽減する国民運動のページ」(<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/>)からダウンロードしてください。



発行 内閣府(防災担当)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1(中央合同庁舎8号館)

TEL 03-5253-2111 URL <https://www.bousai.go.jp>

